（郵便物認可）　（本號六面）　明治二十三年四月九日　（定價金二錢）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千六百十九號　水曜日
明治廿三年四月九日
書曆庚寅二月二十日　（庚、申）
日出午前五時十八分　入午後六時零八分
月出午後十時十八分　入午前七時四十一分
潮汐午前八時四十七分　午後八時零六分
（西曆一千八百九十年）

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價郵送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報社ヨリ廣報ニ郵便ニテ發送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ郵送料ヲ申受ク。

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

時事新報

博覽會の會期

今度の內國勸業博覽會は農作工品その他諸般の產業に關する物品を陳列し文字の如く勸業を目的とするものにして即ち間接に全國の富利を促すものなれば其國運に重大の關係あるは勿論近來各地方とも齊しく政治の熱度を高めて東呼西應互に黨派の掛引に忙はしく純質なる實業者も亦その餘波に震蕩せられて全體の生產力は看〳〵減に減耗に傾かんとするの有樣なれば博覽會の一擧は喩へば暴風雨の後に殆しく颯到一陣人をして坐ろに澄徹を感せしむるの効能あるに非ずして國會開設の期年に當り帝國議會と博覽會とは恰も對陣の勢をなしたるは其旨蓋し淺しと云ふ可らず左れば人民が產業上の奮發心を奬勵せんが爲め事情の許す限りは其都合を圖り遺憾なく開會の目的を達せんとゆそ博覽會の本意なれば我輩は當局者と共に唯その及ばざらんことを恨る〳〵者なり

然り而して博覽會の會期は果して衆覽に供するに充分なりと云ふを得べきか昨今世間の一問題なり四月一日より七月三十一日までの四箇月間の會期短しと云ふ可らざるに似たれども試に其間に於ける觀覽人の差支を察すれば第一に行幸大演習あり演習は四月二日を以て終り夫れより京都へ行幸あり或は呉、佐世保へも幸きせらるゝあらんと云ふ蓋し運御は四月下旬の頃なる可しとの御事なれば各地の人民は陛下を送迎し奉らんとして百事を打棄て歡々煩々の中に博覽會見物をも忘るゝに至る可き尤もの事なり第二は七月一日より於て衆議院議員の撰擧を執行するとあれば政黨沸騰の今日是非とも六月頃より競爭の火花を散らさゝるを得ずして民間の繁忙此上なきのみか五六月は黃梅の時節にして農事に勝取あり最中なれば此時節の間は博覽會の事を思ふ者少かる可し第三は學校の生徒にして各地方の學校は何れも生徒を率ゐて見物せしめんと熱望し居るにも拘はらず七月下旬に試驗を畢りて歸て省京する頃は恰も博覽會の開會するとなるべく將來有爲の國民として產業の思想を感受せしめざるは殘念ありと云ふべし第四は外國人にして是れは博覽會を見物せしむるの外に開國の結果を產む者あれども招待券を發したる

は去月初めの勅使ありと云ふ西洋より東洋へ來るは所謂萬里の波濤を踰ゆるの大旅行なるが故に假令へ外國人ありとて招待券を受取ると同時に直ちに乘船すべきにあらず彼れ是れ手間取りたる後漸く日本に着する頃は前の學校生徒の如くなるも少かからざるべく或は會期に後るゝを懸念して來遊を見合はする者もある可し概算右の如くして誠に遺憾のみか今年は出品殊に多く會場手狹を覺ゆるの盛況にして爲めに觀覽人の通路を狹め陳列の幅を廣めたるよし又聞く所に據れば一時に輻輳し來るときは其混雜も亦一入なるべし種々思合はするに更に一二箇月を延期するみと三方四方の餘都合にして又左程の費用を要するに非ざるべしと信ずなり費用大あらず之を綸する道なきに非ずと雖ども閉鎖後の遺憾は遂に奈何ともするみと能はざるが故に我輩は當局者に向て衆意の所在を吟味せられん事を希望するに切あり

滝水は目下に急あり

玉川の上水は府下百萬人の飲用に供するものなれども水道の源に水滝機械の設なきが爲め降雨のときは濁流のまゝに流れ來りて殆んど清潔物の洗濯にも堪へざるは勿論平常とても濁さずして飲用するとは衛生を重んずるの今日に於て油斷の限りと云はざるを得ず尤も有害物の浸入は水源よりは寧ろ水道の構造如何に由るみと多きが故に從來の鐵管を改めて鑄管となし大に上水の改良を計るべしとは多年來の議論にして我輩も義論あり所なれども東京市區改正委員會の協議する所なりと云ふを聞くに水道改鑄費は六百萬圓にして向ふ十ケ年を期すと云へり或は其時に至り十箇年が十四五箇年となるやも知れず又二十箇年とあるやも知る可らず兎に角に早速の業にあらざるや明白なり左れば其間毎度彼の濁流に惱まされて之を救ふの策なかるべきやと云ふに必ずしも然らず唯水源に水滝機械を据付くれば夫れにて事足る次第なして而も其入費は僅か高の知れたるものなれば水道改鑄の擧るを俟て而して後始めて着手すべきに非ず且つ又其水滝機械なるものは從來の水道にのみ適して鑄管に適せずと云ふに非ず据付けの始めに於て少しく注意を加ふるときは双方に通用して毫も差支あかる可ければ兎も角も機械を設置して目下の急に應せんと我輩が市民の爲めに希望する所あり

官報

○官報は條約　昨日本欄曾計條約出經常部第六項營繕費は條約費の誤なりと昨日の官報に是正したり

○農商務省令第五號

明治二十二年一月農商務省令第一號特許條例施行細則第五十八條第二項中冠記印紙ヲ貼用シノ下「明細書二通圖面二通ヲ添ヘ」ノ十二字ヲ加フ

明治廿三年四月八日　農商務大臣岩村通俊

農商務省令第五號卷末

農商務省令第一號特許條例施行細則（明治二十二年一月四日）第三十八條、特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ通知書ノ日附ヨリ六十日以內ニ納出スヘシ此期限內ニ納出サルトキハ出願ヲ無効トス

特許通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第

○藥價受賣販賣差止　富山縣高岡市木津太郎平なる者高知縣香美郡士族伊藤作藏製造に係る風毒下しと稱する藥の受賣を爲し居りしが本年一月同縣射水郡海老江村關井シン外三人該藥を服用せしに各々中毒を起したるに依り（就も一週間を經て全治せり）直に公立新婦病院に命じて該藥を鑑定せしめしに巴豆を含有したるものと申出づるも略式試驗に係れるを以て更に充分の試驗を衛生局へ照會せし處東京衛生試驗所に於て有害成分は巴豆油を配伍せるものにして一包分を以て劇烈なる中毒性腸胃炎を發起するに足るものと鑑定せり依て之が受賣販賣を爲すみとを差止めたり（富山縣）

雜報

**○三重縣會の大紛擾　同縣の臨時縣會は去る一日より開會せしが議事に先だち大紛擾を生じ遂に小會議を開きて七名の委員を撰擧し理事者と談判を開くことにありたりと云ふ事の起りを聞くに去年九月の暴風雨に際し同縣下三重郡旭川の堤防破壞しさるに付理事者は此修繕費の豫算を一萬八千圓と見積りて原案を編製したるに議會は實地を見分したる上一萬圓を削除し八千圓を以て之を修繕する事に決議したり此の決議を表面より見る時は實に不當なるが如くなれども此破損せる堤防内は鮒池にして汐入の地たるのみならず恰かも四日市に接近し居るが故に關西鐵道布設の計畫ありし當時桑名の豪商諸戸清六氏手を廻して廉價に之を購求し而して表面上の持主は同氏のみなれども尙其他にも加り居る人ありて是は其筋にて而かも土木に緣ある人なりと の噂高く而して斯る魂膽は畢竟他日鐵道成り四日市港戸口次第に增殖するに及んで之を高價に賣却するの計畫に外あらざるとを探知したる議員ありて鮒池同樣の汐入池に一萬八千圓を投ずるは中々容易のみとに非ら ず且つ以上の事實あるが爲めに遂に議會は假令此の一萬八千圓を惜氣なく投ずるも左のみ地方の利益とあらざるを聞めたるより大袈裟に一萬圓を節減するに至れりと斯の如く非常の節減を加へたるが故に理事者主任小池土木課長は知事に向つて最早同堤防の修繕は到底爲す能ゝ可からず拙者は職を辭して後任者の設計に任ずべしと云ふに至れり知事は漸く奮勵赴任したる位なれば是等の錯雜したる情實を知らざるが故に愈々出來得ざるみとあれば不認可と爲す可しとて同課長の辭職を聞屈けざりしに今度半數議員の改撰終りて臨時縣會を開らくの場合に至りて議員の一人竹原儀一氏議事に先だちて右修繕費の認可不認可如何を質問したるに番外一番岩男書記官は目下詮議中ありとの答辯を與へたるも竹原氏は常置委員の一人は現在原案通り執行し居れりと物語りたるものゝあり左れば何れが眞僞なりや甚だ了解に困ひを以て此の上は小會議を開らきて本件に關する方針を定む可しと論じ議會の一致を待て遂に小會議を開きたるに理事者の不都合を鳴らすもあり當局者の更任を請ふべしと言ふもありて議論頗ふる沸騰したれども結局七名の委員を撰びて當局者の更任を勸告するとに決し其委員には議長北川矩一、常置委員角利助、小川義郎、福地次郎、竹原儀一、北村米助、平杉宜樣の七氏撰ばれ角氏以下の六氏は去る四日岩男書記官に面會して右の事情を曉判せしに成川知事は目下名古屋に出張中なるを以て其の歸縣を待ちて直接に談判ありたしとのみとして其説に引取りたる趣なるが同委員は是非とも衆志を貫徹せんと同知事の歸縣を待居るよし

○大演習中の名古屋　今度の演習中は營業休み同市中、祭禮の如し　投宿せし諸兵は實に夥しく萬の餓宿屋は何かど不行日町毎に深更迄寄合を催は何れの町内にても今の者のあるならんと、鶴首士卒は疲勞の甚しき爲め徹夜したる卒にて市内りしと云へり

料理店の不景氣　豫て會店も一儲けなさんとて待る料理店は悉皆貴顯の見ても、其門戸に何官めに新來の人々は勿論、經へて其門に足踏みせず、日々夜々一向寂寥を極めたりと

遊廓　市中の遊廓も大演習中は營業半休み同樣にて平生よりは遊客も五割方を減じたり右は今度の演習と付市中の遊廓は近衛の何々何名の旅舍と張り札し何となく自然と客足の遠ざかるに甚く由九も遊廓營業者は賤業の此家に我が近衛兵士の來宿するは辱なしとて其筋より下渡しになる支拂は兵士一人に付一日の宿料十五錢の割りあるも同遊廓にては營業の等級に依て上中下の三級に分ち或は五十錢若くは三十五錢三十錢等の支拂を自分にてあり極めて兵士を優遇せりと云へり

上景氣のもの　料理屋　藝者屋遊廓の何れも賑ての外れたるとは事實にして今度の演習の爲めに俄に景氣著きたるは呉服屋、小間物屋、時計屋にて其殊に克く賣捌けたり酒等にして其日夜に多く郡市吏員と大工、日雇市中營飛おし　大演習同市内に集ひ來れるも士が攀み來りて爲す事が是は全く浮說にしてきやとの說忽ち力を得たり幕の事は見合せにな諸新聞の賣廣め　東京々々見事なる次第なり紙を賣り廣めんと全て何れも立派なる廣